

湖南省教育だより 令和7年(2025年)3月28日 No.4



発行 湖南省教育委員会教育研究所
湖南省石部中央一丁目1番1号 西庁舎内

TEL 0748-77-7052(直通) FAX 0748-77-4101(代)
Mail edkonan006@edu-konan.jp



市教委研修（初任者研修・中堅教諭等資質研修）

第4回初任者研修（10月3日）

午前は、企業（甲賀高分子株式会社）の講義・演習から社会人としての心構え、会社で大事にしていること、若手教員に望むことを学びました。



午後は、甲西中石畠先生の国語科の授業から、生徒が取り組んでみたくなる授業づくりについて学びました。



協議会では、児童生徒と同じクラウド環境で、共同編集を行いながら話し合いました。

第5回初任者研修（2月4日）

水戸小竜王先生の道徳科の授業から、どの児童も学びに向かうことができる授業づくりについて学びました。



第2回中堅教諭等資質向上研修（11月21日）

水戸小水上先生の道徳科の授業から、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりについて学びました。



授業の終盤には、ゲストティーチャーとして、毎朝、子どもたちを迎えておられる校長先生からあいさつの気持ちよさについてのお話がありました。

中堅教諭等資質向上研修（R6.11.21）



初任者研修や中堅教諭資質向上研修の研究協議会で体験した児童生徒と同じクラウド環境を使った意見共有の方法が各校に持ち帰られ、クラウド活用のよさが市内全体に広がっています。

ICT活用推進委員会

2月7日に開催した第3回ICT活用推進委員会では、各校が第1回会議で設定した「重点的に取り組むべき事項」についての成果と課題を共有し、リーディングDXスクール指定校の実践発表も行いました。

菩提寺小

第2回(11/12)以降の成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの連絡の電子化(スクリーンショット) 文庫館、野矢生の保護観察 個別指導の日報調整はスクリーン→Formsで 保護者への連絡の電子化(スクリーン→Forms) 1ヶ月間実施し、職員も保護者も定着 ICTの日常使い 校務研究の取組と連携させて保護 常務性を取り入れる。活用を創意工夫 Li-Gate、Teams、オンラインは全学年で活用 Canvasの導入もあり、できることが増えた 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを教員活用する上でのモラル指導 家庭での利用のルールは設けるもいつも手元にあるゆえに、「やめられない」子ども 情報モラルの指導については担任数による部分が多かった モラルよりよい使い方について学年ごとに関連して指導していきたい 職員の間違ったやり方を防ぐ 管理不足し使える学生が育てる

次年度取り組みたいこと

- 1年生からスマイルドリルを導入 → 夏休み以降常時持ち帰り
- いじめ手元あり、高学年時に使える1年生から導入前に
- くすのタイム(勤学習)を活用して、ICTのスキルアップや情報モラルについて学ぶ時間を確保する
- 人権月間とリンクさせて、保護者と一緒に情報モラルについて考える機会を設ける

石部小

第2回(11/12)以降の成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 「まずは共有が第一歩」活用推進の促進 ICT教員研修、校務研ら部会にて活用等 オンライン Canvasの使用頻度増加 校務DX推進のための、活用推進の促進 (150周年事業の出版、個別指導の日報調整、保護 観察の記録など) → 成果発表 ICTの活用者の育成・みんなが得意な仲間づくり → 進歩が早いだけでなく、みんなが得意な仲間づくり → アドバイスを通して教員も使い慣れやすくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを教員活用する上でのモラル指導 家庭での利用のルールは設けるもいつも手元にあるゆえに、「やめられない」子ども 情報モラルの指導については担任数による部分が多かった モラルよりよい使い方について学年ごとに関連して指導していきたい 職員の間違ったやり方を防ぐ 管理不足し使える学生が育てる

次年度取り組みたいこと

- タブレット機器の持ち帰り推進(まずは、連絡帳として)
- 校内研に「効果的なICT活用」を取り入れ、全校で推進する。伝え合い「ICT×意図的な話し合い」
- Li-Gateの活用促進、お悩み相談、授業への活用手段
- ICTを活用した教材づくりとデータの共有(即めしていく)
- Teamsの活用頻度が少ないため、データ共有の方法として整備していく。

会議前からクラウドで資料を共有し、他小中学校の実践に対して聞きたいことが聞ける時間を設けることで、協議が深まりました。

ICT授業推進ワーキンググループ

2月27日に開催した第3回ICT授業推進ワーキンググループでは、メンバーそれぞれが実践報告を行い、その内容を各部会で共有しました。さらに、授業の目的や目指す子どもの姿に焦点を当て、授業力向上を目指すために必要な取組について協議を行いました。最後に、以下のキーワードが出てきました。



子ども主体の授業をデザイン
参加しやすい環境づくり
意見を集めるだけでなく、比べるところまでクラウドを活用
データの蓄積を生かした積み上がっていく振り返り
教師は、どんな時も学びの価値づけを大切に

ワーキンググループの授業研究会は、校内研究と兼ねて実践した事例がいくつかあり、参加したグループメンバーと実践校の教職員との意見共有を行うことができました。この共有を通じて、双方の学びが深まりました。次年度は、市内の他校で行われている協議会の進め方や学びの内容を共有することにより、各校の校内研究がさらに活性化すると考えています。また、4月からはクラウドを活用した市内共通の研修プラットフォームの運用を開始できるよう、準備を進めていきたいと考えています。

当日参加者の振り返りから

- ・はじめのころから言われていましたが「ICTは目的ではなく手段」「あくまでツール」ということが、ようやく自分の中でも腹落ちし始めた感じがします。多くの実践が集まるこの機会が、教員側のたくさんの学びとなり、それが子どもたちに還元されていると思うと、良い取組だなあと感じます。他の教職員につながるコーディネーターという話もいただきましたが、この話をどのように伝えどのように広めていくのか。ただ、打ち合わせなどで「こんな話でした。」と出すのではなく、普段の職員室の会話という機会をとらえたり、学校組織の中でどのように位置づけて伝えていくのか、その手法が大事だとも感じています。
- ・他の学校の先生方と実践を共有することでICTの仕様の幅がぐんと広がった気がします。また、他のグループの先生方のお話を聞く中でICT活用の利点や課題点を学ぶことができ、来年度以降もICTを活用した授業実践を積極的に行っていきたいと思えました。

石部小学校の校務DX化に向けて

- ①教員に使い方を伝達する。(研修)
- ②教員が使っている。(意図的に校務で)
- ③メリット(良さ)を感じてもらう。
- ④授業に使ってみようかな?(意識改革)

GO!!! 教える側も関係者をつくる。

子どもへ返していくためには...

【実践事例③】オンラインプラスで校務DX化

校務DXを進めていくにあたって、追加1人で済めばには困難がある。みんなが使えるように時間を確保すること！

意図的に仕組むこと

他の先生が興味を持つように工夫を凝らすこと

それが広まってくることで、教員も活用していく

そして、それが子どもへ返っていく

教員も活用をすすめています

子どもに「おとな」から

校務DXを進めていくにあたって、追加1人で済めばには困難がある。みんなが使えるように時間を確保すること！

意図的に仕組むこと

他の先生が興味を持つように工夫を凝らすこと

それが広まってくることで、教員も活用していく

そして、それが子どもへ返っていく

教員も活用をすすめています

【実践事例④】校区連携

中学校区連携を強化

事前にチャットで協議内容をアップしておく。

各教員の実践を共有しておく。

「経験」の活用することで、実践効果がより高い話し合いになった。

今後の取り組みと課題

【課題2】失敗を恐れて最終でなくなる。『できなかつたらどうするんですか?』

『迷ったらとにかくやってみる』

TRIAL AND ERROR!! (試行錯誤)

何が成功でどうなったら失敗かがわかる。

『できなかつたら』ではなく、『やらねばならない』が重要

リーディングDXスクール実践校の2校の発表から、「とにかくやってみる」そして、まず教職員が体験してよさを知ることによって児童生徒の活用につながっていくことがよく伝わりました。次年度、さらに湖南省に広がっていきます。

当日参加者の振り返りから

- ・どの学校も毎日の常時持ち帰りで悩まれていること、その中で様々な挑戦をされていることを聞き、本校でも「できる・できない」ではなく「やるか・やらないか」「迷ったらとにかくやってみよう」を合言葉に取り組んでいきたい。
- ・石部小のように、一人の担当者だけでなく、ICTの悩みを出せる窓口を複数化できると広がっていくと感じました。ポイントを絞った短時間の研修を行い、実際に使う機会(使えること)を増やしていくことが大切だと思いました。教科や教師によって温度差があるので少しでも「やってみたいな」「便利だな」「面白いな」から「やってみたらできた」「思ったより簡単だった」ということが実体験として増えていくように取り組みたい。「こういうことってできるのかな?」という前向きな活用希望・要望がたくさん出てくるような雰囲気を作れるかなと思っています。